

高井伸夫著「勉強会、少なくとも一つ主宰しよう」Management Law Letter 86, 2010 新緑号

高井・岡芹法律事務所刊を読む

「勉強会」～少なくとも一つ主宰しよう

1. 経営環境が極めて厳しい今の“右肩下がりの時代”には、“原則倒産”の心構えが必要であり、優良企業でさえも安穩としてはいられない。しかし、この状況を克服するための特效薬はなく、結局は、経営者・管理者が「企業は人なり」の理念に立ち返り、従業員等の力を最大限発揮させるべく、まずは人事労務・労働法の分野について一生懸命に勉強することが、最も確実な方途なのである。
2. ただ、自分一人での勉強には限界がある。効率良く広い知識を吸収するためには、切磋琢磨できる多数の仲間を募ることが必要となってくる。それには、多くの企業が関心をもつテーマを選び、自ら勉強会を持つことが不可欠となるだろう。勉強会という仕組みを作ることによって、有能なメンバーと賢明な知恵を結集できるのである。
3. 勉強会の主宰など自分には無縁だと感じる人も多いかもしれないが、充実した仕事や良い人間関係は、「したほうがよいこと」を進んで実行する意欲によって、はじめて得られるものである。また、研修費が真っ先に経費節減の対象となる経済状況でも、人に対する投資こそが、長引く不況を脱する地力となる、と考える企業は決して少なくない。
4. 私が長年主宰してきた「社長フォーラム」や「社長塾」では、参加された経営者の方々と世の中の流れを分析し、未来予測を語り合った。参加者の方々からは「貴重な刺激を受けた」と言って感謝していただいたが、それ以上に、私は教える立場の利点を享受できたと思っている。つまり、自前で勉強会を作れば、セミナーでの講義等、教える立場の練習になるし、また、「人に教える」という緊張感から事前の準備や確認を入念かつ綿密に行うことにより、一段と学びの効率が上がるのである。このように、勉強会を主宰して皆の前で発表・報告をすることは、勉強せざるを得ない状況を自ら作り出すという意味もあるとあってよい。
5. 勉強会の構成メンバーの選定にあたっては、当然ながら良い人脈作りという視点が欠かせない。良い人脈を形成するポイントとは、自分自身が良い人脈となること、人を見る目を養うためにも相手を選ぶこと、若い人々とも積極的に付き合い、人脈の更新を心掛けることである。「勉強会」はまさにその格好の場となるであろう。
6. 労務管理・労働法の勉強会であれば、これに精通した人を集める。たとえば、この分野の問題に

日夜明け暮れている担当者や実務家、各企業の責任者をメンバーに選ぶことが、会の成功につながるのである。

7. 厳選したメンバーとの議論は、素晴らしいアイデアを生む。企業が、管理施策としてのビタミンやサプリメントを補充し、さらにはあらゆる方策を打つてもなお、倒産危機に直面せざるを得ない現状においては、革命的・革新的アイデアを生み出すことが必要であり、勉強会はそのための優れた装置でもあるのだ。

[コメント]

自分自身のために、また、仲間のために、更には社会の発展のために「勉強会」を少なくとも一つ主宰しようという弁護士高井伸夫先生の御提案は心にしみる素晴らしいものだと思う。

- 2010年4月17日 林明夫記 -